

## 共同研究

(二〇一九年四月一日～二〇二〇年三月三十一日)

### 〈重点共同研究〉

投企する古典性―視覚／大衆／現代

(研究代表者 荒木浩)

〔共同研究者名〕

稲賀繁美、石上阿希、呉座勇一、伊藤慎吾、ゴウラン  
ガ・チャラン・プラダン、前川志織、グエン・ヴー・ク  
イン・ニュー、ケラー・キンブロー、李銘敬、虞雪健、  
石原知明、李杰玲、李市竣、飯倉洋一、上野友愛、岡  
田圭介、河東仁、恋田知子、河野貴美子、河野至恩、  
合山林太郎、齋藤真麻理、竹村信治、中野貴文、中前  
正志、野網摩利子、三戸信恵、箕浦尚美、山本陽子、  
渡部泰明、渡辺麻里子、深谷大、屋良健一郎、平野多  
恵、徳永誓子、土田耕督、エドアルド・ジェルリーニ、

松平莉奈、板坂則子、ガリア・トドロヴァ・ペトコヴァ

〔海外共同研究員名〕

楊曉捷、山藤夏郎、李愛淑、金容儀、マラル・アング

ソヴァ

〔研究発表〕

〈第一六回研究会〉

二〇一九年九月二八日

仲町六絵(ゲストスピーカー)「キャラクター小説から古  
典への応答 ―小野篁と安倍晴明を主人公に―」

中村明一(ゲストスピーカー)「日本音楽の構造」

二〇一九年九月二九日

松平莉奈「古典を絵にする」

〈第一七回研究会〉

二〇二〇年二月一日

グエン・ヴー・クイン・ニュー「日本の教科書に見る俳句学」

李市峻「狐女房譚」の変容―古典文献資料から昔話へ―

二〇二〇年二月二日

井黒佳穂子(ゲストスピーカー)『稚児之草紙』の成立

―本文の和歌引用をめぐって―

### 「運動」としての大衆文化

(研究代表者 大塚英志)

〔共同研究者名〕

アルバロ・ダビド・エルナンデス・エルナンデス、山本忠宏、前川志織、伊藤慎吾、板倉史明、内田力、菊地暁、神松一三、近藤和都、嵯峨景子、佐野明子、杉本仁、鈴木麻記、鈴木洋仁、團康晃、鶴見太郎、石田美紀、萩原由加里、ビヨン・カマ、藤岡洋、牧野守、松井広志、室井康成、雑賀忠宏、竹村民郎、川松あかり、藤嶋陽子、執行治平、花田史彦、香川雅信、横田尚美、谷島貫太、滝浪佑紀、櫻木千恵、北浦寛之、川口典成

〔海外共同研究員名〕

浅野龍哉、蔡錦佳、斉夢菲、秦剛、マーク・スタインバーク、金日林、エドモン・エルネスト・ディ・アルバン、宣政佑

〔研究発表〕

〈第七回研究会〉

二〇一九年八月三十一日

鶴見太郎「運動としてみる民俗学の組織化」

鈴木麻記『『漫画史』形成の場―清水勲と川崎市市民

ミュージアムに注目して〕

近藤和都「アニメ文化と再放送―『機動戦士ガンダム』

をめぐる視聴者運動を中心に〕

鈴木洋仁「哲学と塾のあいだ―日本思想における長谷川

宏の「運動」〕

〈第八回研究会〉

二〇一九年二月一四日

北浦寛之「イギリス・ノリッジの日本文化と研究―セイ

ンズベリー日本藝術研究所での研究活動をもとに〕

伊藤慎吾「現代エンターテインメント小説におけるモンス

ターの和洋混淆〕

小野塚佳代「戦中のオーストラリアと日本の漫画の比較」

王琮海「戦時下アニメーションにおける音声と画面を配

合する手法——中日の差異とその背後の思想的条件」

二〇一九年二月一五日

トーマス・ラマルル「メディアとしての妖怪」

アルバロ・ダビド・エルナンデス・エルナンデス「メキシ

コ漫画イストリエタにおけるホラーの表現」

大塚英志「妖怪・変身・アヴァンギャルド」

コメンテーター・伊藤慎吾

〈第九回研究会〉

二〇二〇年二月八日

神松一三「正力松太郎の事業とその独自性の研究」

佐野明子「日本におけるディズニーの受容と展開…劇場

パンフレットおよび映像分析」

マリア・デル・カルメン・バエナ「マンフラと日本のパン

ドデシネ」

二〇二〇年二月九日

宣政佑「純情漫画データベースの製作と日本少女漫画」

孫旻喬「変身する「人造人間」——一九二〇年代の日本

における「人造人間」の受容と表象」

大塚英志「市川綱二文書と上海映画工作」

### 音と聴覚の文化史

〔研究代表者 細川周平〕

〔共同研究者名〕

光平 有希、中原ゆかり、青嶋絢、秋吉康晴、宇都宮聖

子、岡崎峻、奥中康人、柿沼敏江、葛西周、春日聡、

金子智太郎、久保田晃弘、齋藤桂、城一裕、谷口文和、

土田牧子、辻本香子、中川克志、長崎励朗、昼間賢、

福田裕大、福田貴成、細馬宏通、横井一江、吉田寛、

輪島裕介、渡辺裕、長門洋平、越智朝芳、福永健一、

瀬野豪志

〔海外共同研究員名〕

キャロライン・S・ステイブンス、山内文登、阿部万

里江

〔研究発表〕

〈第一一回研究会〉

二〇一九年五月一八日

瀬野豪志「『イヤフォン』の文化史」

「『聴力』『測定』『補聴器』」

福永健一「拡声という声の営みの歴史…その技術史と文

化史」

キャロライン・S・ステイブンス「Sound control in

Japan」

二〇一九年五月一九日

中原ゆかり「小口大八と太鼓の音」

斎藤桂「箏曲家の聴覚エッセイ…鈴木鼓村『耳の趣味』

(一九一三)を読む」

〈第二二回研究会〉

二〇一九年一〇月二六日

伊藤亜紗(ゲストスピーカー)「吃音者の耳とろう者の声…

「聞く」と「話す」のあいだで」

福田貴成「音を見る」ことへの系譜…一九世紀の両耳聴実

験からサウンド・アートまで」

映画『リッスン』上映

二〇一九年一〇月二七日

映画『リッスン』をめぐる談話会

長門洋平「視聴覚メディアにおける「物語世界の音 diegetic

sound」

渡辺裕「音響学者・田口柳三郎と「耳の戦争」

〈第一三回研究会〉

二〇二〇年三月一四日

梅大也(ゲストスピーカー)「《赤とんぼ》の戦後―表象

の山田耕筰試論」

柳沢英輔(ゲストスピーカー)「フィールドレコーディン

グの実践を通じた音響民族誌の可能性」

金子智太郎「市民による音づくり——荻昌弘のオーディ

オ批評」

二〇二〇年三月一五日

辻本香子「アジアの市街地における芸能／スポーツとし

ての龍舞映画 再論」

横井一江「オフサイトの脱神話化―オフサイト、オンサ

イト」

青嶋絢「サイトスペシフィック・アートと音の表現―

八〇―九〇年代の芸術祭・アートプロジェクト史から

辿る」

細川周平「昭和初期の騒音低減運動」

応永・永享期文化論―「北山文化」「東山文化」という大衆  
 的歴史観のはざままで―

〔研究代表者〕 大橋直義、呉座勇一

〔共同研究者名〕

伊藤慎吾、高橋悠介、橋本正俊、猪瀬千尋、今枝杏子、  
 大河内智之、川口成人、川本慎自、小助川元太、小山  
 順子、坂本亮太、重田みち、谷口雄太、貫井裕恵、山  
 田徹、芳澤元、大澤絢子

〔海外共同研究員名〕

亀田俊和

〔研究発表〕

〈第五回研究会〉

二〇一九年六月一五日

大橋直義「『三国伝記』における寺社縁起」

二〇一九年六月一六日

重田みち「世阿弥と一条兼良の交流の可能性―足利義持

政権期における中国古典の学問・受容に関する考察の

一環として―

大澤絢子（ゲストスピーカー）「親鸞伝の中世的展開」

〈第六回研究会〉

〔所外開催 東京大学史料編纂所〕

二〇一九年九月二八日

太田亨（ゲストスピーカー）「日本中世禅林における中国  
 文学受容について―応永年間を中心に―」

五月女肇志（ゲストスピーカー）「応永年間の今川了俊

―歌論書を中心に―

石原比伊呂（ゲストスピーカー）「足利將軍家の規範先例

―「義満型」と「義持型」なる二類型と応永という時

代―

二〇一九年九月二九日

白井和樹（ゲストスピーカー）「元号「応永」考―一四

〇―一五世紀の改元における位置づけ―

中嶋謙昌（ゲストスピーカー）「応永三〇年前後の能と演

者

山本啓介（ゲストスピーカー）「足利義持文化圏の和歌・

連歌」

〈第七回研究会〉

二〇一九年十二月一四日

橋本正俊「『三国伝記』の「今」を考える」

小助川元太「『堪囊鈔』と『三国伝記』」

赤澤春彦（ゲストスピーカー）「室町期の陰陽道・陰陽師」

大衆文化と文明開化…幕末から明治への激動期における大衆メディアの位置及び役割

〔研究代表者 アリスティア・スウェール〕

〔共同研究者名〕

瀧井一博、細川周平、ジョン・グリーン、古川綾子、石上阿希、西山由理花、サイモン・パートナー、松田宏一郎、土屋礼子、五百旗頭薫、菅原真弓、百瀬響、大久保健晴、アレキサンダー・ベネット、岡本貴久子、土谷桃子、奈良岡聰智、森岡優紀

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一九年九月七日

アリスティア・スウェール「今後の研究会の運営方針について」

二〇一九年九月八日

菅原真弓『月岡芳年伝 幕末明治のはざまに』（中央公論

美術出版、二〇一八年）を読む

評者・石上阿希

筆者からの応答とディスカッション…菅原真弓

〈第二回研究会〉

二〇一九年十一月一六日

百瀬響『文明開化・失われた風俗』（吉川弘文館、

二〇〇八年）を読む

評者・アリスティア・スウェール

筆者からの応答とディスカッション…百瀬響

二〇一九年十一月一七日

土屋礼子「明治初期の小新聞と政党機関紙」

瀧井一博「知識交換と博覧会―大久保利通の殖産興業」

〈第三回研究会〉

二〇二〇年二月二日

松田宏一郎「徂徠学と「風雅」の人心的効用」

土谷桃子「江戸と明治を生きた戯作者 山々亭有人こと

糸野採菊」

二〇二〇年二月三日

岡本貴久子「大日本山林会の近代博覧会事業に向けたま

なごし―「山」の見せ方一考」

アレキサンダー・ベネット「明治期の剣道教育と武道の大

衆化」

〈第四回研究会〉

二〇二〇年三月一四日

西野 亮太「鈴木経勲の『南洋探検実記』（一八九二）…敗

者復活戦としての自己演出？」

サイモン・パートナー「幕末時代紀州藩におけるニュース

と情報の流通…小梅日記を例にして」

二〇二〇年三月一五日

森岡 優紀「明治初期の伝記の変容とメディア」

アリスティア・スウェール「明治憲法発布以降の東京デカダ

ン—若干の考察」

マス・メディアの中の芸術家像

〔研究代表者 松井茂、坪井秀人〕

〔共同研究者名〕

前田真二郎、伊村靖子、佐藤知久、原久子、中西博之、

川崎弘二、長寫寛幸、外山紀久子、藤井貞和、鈴木勝

雄、渡部葉子、本間友、服部真吏、岡田暁生

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一九年五月一三日

松井茂「マス・メディアの中の芸術家像」

坪井秀人「本共同研究会の基本的考え方」

二〇一九年五月一四日

川崎弘二「マス・メディアの中の芸術家像 作曲家・坂

本龍一と武満徹の場合」

坂本龍一（ゲストスピーカー）「インタビュー…

一九八四・一九八五・一九八六の東京での活動をめぐっ

て」

〈第二回研究会〉

二〇一九年七月一四日

川崎弘二「一九八四・八五年の坂本龍一のメディア・パ

フォーマンス」

松井茂「出版のパフォーマンス 坂本龍一の音楽外的思

考」

二〇一九年七月一五日

長寫寛幸「機材テクノロジーの変遷から考察する sync と

async」

佐藤知久「ポストモダニズム、あるいは資本主義リアリ

ズムの予兆としての一九八〇年代中期について」

〈第三回研究会〉

二〇一九年九月二九日

松井茂「出版のパフォーマンス 坂本龍一の音楽外的思考／磯崎新の建築外的思考二」

鈴木勝雄「水牛楽団の活動とアジア——文化を通じた連帯の夢」

二〇一九年九月三〇日

松井茂「二九日の総括と本日のプログラムへの接続」

服部真吏「磯崎新をめぐる」

佐藤知久「浅田彰をめぐる」

〈第四回研究会〉

〈所外開催 情報科学芸術大学院大学〉

二〇一九年十一月二六日

前田真二郎「ヴィデオと自作をめぐる」

ケン・ヨシダ（ゲストスピーカー）「マス・メディアの中の芸術家と批評をめぐる」

坪井秀人「ストリート文化のなかの寺山修司」

二〇一九年十一月二七日

松井茂「「マスメディアの中の芸術家像」のこれまでとこれから」

藤井貞和、坪井秀人「湾岸戦争論とはなんだったの

か？」

〈第五回研究会〉

二〇二〇年二月九日

ラウンドテーブル「湾岸戦争詩論争とは何だったのか」

坪井秀人「湾岸戦争論の射程」

藤井貞和「瀬尾育生と湾岸戦争論」

瀬尾育生（ゲストスピーカー）「湾岸戦争論」をめぐる  
二〇二〇年二月一〇日

松井茂「研究会の総括と今後の展望」

伊村靖子「無印良品の成り立ちを通して考える、アートとデザインの問」

〈国際共同研究〉

差別から見た日本宗教史再考——社寺と王権に見られる聖と賤の論理

（研究代表者 磯前順一、吉村智博）

〔共同研究者名〕

鈴木岩弓、鍾以江、小田龍哉、アンナ・ドゥーリーナ、藤本憲正、孫江、佐藤弘夫、小倉慈司、鈴木英生、川村

寛文、山本昭宏、青野正明、菊田真司、船田淳一、太



田恭治、浅居明彦、佐々田悠、寺戸淳子、金沢豊、西宮秀紀、井上智勝、舟橋健太、鶴見晃、河井信吉、上村静、安部智海、竹本了悟、守中高明、関口寛、岩谷彩子、久保田浩、吉田一彦、林政佑、大村一真、戸城三千代、大林浩治、山田忍良、里見喜生、荻原稔、中村平、打本和音

〔海外共同研究員名〕

トモエ・イレネ・M・シユタイネック、ラジ・C・シユ  
 タイネック、ランジャナ・ムコバディヤーヤ、ダニエル・  
 ボツマン、酒井直樹、和氣直子、尹海東、呉佩珍、片  
 岡耕平、ヒトミ・トノムラ、ガルミッシュ・フロランス、  
 平野克弥

〔研究発表〕

〈第一六回研究会〉

二〇一九年六月一日

川村覚文「情動的存在と国民的主体性——現代の統治性  
 と主権について」

上村静「ディアスポラと国民国家——「ユダヤ人」であ  
 ること」

吉村智博「摂津役人村（渡辺村）の存立構造」

〈第一七回研究会〉

二〇一九年七月二七日

大村一真「公共空間と「聖なるもの」——公共空間にお  
 ける包摂と排除を論じる一視角」

関口寛「日本近代の人種主義・差別・統治性——部落間  
 題の成立をめぐる」

西宮秀紀「浪速神社と坐摩神社」

寺戸淳子「ヘラルシュ」共同体運動の「リアリズム」——

「健常者」ではないこと (a-normal, extra-ordinary)」

〈第一八回研究会〉

(所外開催 國學院大學渋谷キャンパス)

二〇一九年九月二一日

佐藤弘夫「穢れを嫌う神——差別の発生と深化の構造」

舟橋健太「被差別／非差別の主張とカースト制度——「不  
 可触民」であること、インド人であること」

青野正明「在日コリアンについて」

國學院大學博物館見学

〈第一九回研究会〉

二〇一九年十一月九日

片岡耕平「犬神人・芸能民・遊女」

岩谷彩子「離散の歴史を生きるということ——ヨーロッパのロマにみられる空虚 (void) 表象・過剰の表出」  
鈴木岩弓「民間信仰にみる差別の問題——出雲の狐持ち」  
山本昭宏「水俣病者と原発被災者差別」

〈第二〇回研究会〉

二〇一九年二月一日

井上智勝「奥羽の「神職人」について——近世の神祇奉仕者をめぐる聖と賤——」

平野克弥「天皇の赤子」——アイヌモシリの収奪と保護の論理——

菊田真司「近代」・「公共性」・「差別」

吉田一彦「本願寺と被差別民——親鸞系諸門流の聖徳太子信仰をてがかりに」

身体イメージの想像と展開——医療・美術・民間信仰の狭間で

(研究代表者 安井眞奈美、ローレンス・マルソー)

〔共同研究者名〕

木場貴俊、石上阿希、井上章一、古川綾子、前川志織、  
山田奨治、杉田智美、坂知尋、光平有希、板坂則子、  
中本剛二、相田満、蘆田宏、今井秀和、遠藤誠之、越

智秀一、川橋範子、木森圭一郎、倉田誠、桑原牧子、  
香西豊子、鈴木則子、鈴木由利子、高橋淑子、田里千  
代、波平恵美子、松岡悦子、宮崎康子、エドワード・ド  
ロット

〔海外共同研究員名〕

金容儀、魯成煥

〔研究発表〕

〈第五回研究会〉

二〇一九年五月二五日

越智秀一「境界としての身体——外邪・妖異と内なる神々の交錯するトポス」

坂知尋「三途の川の媼と救済・現世利益の女神——視覚的特徴の解釈から考察する奪衣婆の性格の展開」

二〇一九年五月二六日

松岡悦子「出産に見られる身体の諸相——医療・資本主義・女性の主体性」

〈第六回研究会〉

二〇一九年七月六日

蘆田宏「身体と視覚——視覚による自己運動感覚と姿勢制御について」

安井眞奈美、ローレンス・マルソー「共同研究会の成果

報告書と企画展示、今後について」

光平有希「日文研宗田文庫図版資料について」

二〇一九年七月七日

井上章一「禪の日本」

〈第七回研究会〉

二〇一九年九月二八日

安井眞奈美「今後の発表と成果報告について」

ゼンタイ・ユディット「江戸時代を中心とした日本眼科医

療史」

パップ・メリンダ「日本の通過儀礼における身体とそのシ

ンボリズム」

二〇一九年九月二九日

倉田誠「認知症のイメージ」

〈第八回研究会〉

二〇一九年十一月九日

安井眞奈美「成果報告について」

ローレンス・マルソー「形と機能 近世日本の絵入文学に

おける身体像小考」

アンナ・アンドレーワ「前近代東アジアと中世日本におけ

る胎内学思想と性別の占い」

二〇一九年十一月一〇日

アストギク・ホワニシャン「性と生殖をめぐる政治・戦後

日本の場合」

東アジアにおける哲学の生成と展開―間文化の視点から

〔研究代表者 廖欽彬〕

〔共同研究者名〕

伊東貴之、稲賀繁美、劉建輝、中島隆博、谷徹、石井

剛、杉村靖彦、小倉紀蔵、上原麻有子、志野好伸、浜

渦辰二、植村和秀、合田正人、藤田正勝、井川義次、

嶺秀樹、安部浩、景山洋平、太田裕信、竹花洋佑、秋

富克哉、出口康夫、植村玄輝、ダリシエ・ミシエル、亀

井大輔、佐藤将之

〔海外共同研究員名〕

王青、呉偉明、張政遠

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一九年十一月二四日

藤田正勝「田辺元とハイデッガー」

浜渦辰二「日本におけるフツサル現象学の受容」

ダリシエ・ミシエル(ゲストスピーカー)「The Particide

(尊属殺人)」

中島隆博「日本における老荘思想の近代的受容」

井川義次「中国哲学情報のヨーロッパにおける解釈と受

容―問文化の視点から―」

廖欽彬「三木清とハイデッガー」

### 近代東アジア文化史の再構築Ⅰ―19世紀の百年間を中心に

(研究代表者 劉建輝)

(共同研究者名)

井上章一、石川肇、孫江、宋琦、唐権、上垣外憲一、

陳力衛、王宝平、小倉紀蔵、白幡洋三郎、单援朝、陳

継東、仲万美子、松宮貴之、森田憲司

(海外共同研究員名)

王中忱、劉序楓

(研究発表)

〈第一回研究会〉

二〇一九年八月二日

劉建輝「近代東アジアモダンロードの成立―出島史観へ

の批判を兼ねて」

帝国のはざまを生きる―帝国日本と東アジアにおける移民・  
旅行と文化表象

(研究代表者 蘭信三、松田利彦)

(共同研究者名)

劉建輝、单荷君、高燕文、中山大将、権香淑、野入直

美、八尾祥平、李洪章、石川亮太、原佑介、木下昭、

長沢一恵、深尾葉子、坂部晶子、高媛、塚瀬進、丁智

恵、福本拓、松平けあき、孫嘉睿、上田貴子、ニコラ

ス・ランブレクト

(海外共同研究員名)

張嵐、朴裕河、陳姪媛、李正熙

(研究発表)

〈第一回研究会〉

二〇一九年五月一日

蘭信三「共同研究「帝国の狭間を生きる」の意義と今後

の計画」

木下昭「コンタクト・ゾーンとしての「日本語教室」…

フィリピンをめぐる帝国支配の記憶」

八尾祥平「台湾と沖繩を生きる——一九七〇年引揚者のラ  
イフストーリーを中心として」

〈第二回研究会〉

二〇一九年七月一三日

高燕文「和田傳が見た「滿蒙開拓」——「滿洲」現地へ  
のまなざし」

原佑介「帝国のはざま、植民地の「密室」で出会う——

日本人作家が描いた三・一独立運動を手がかりに」

丁智恵「一九六〇年代日本の映像メディアに現れた「愛」と「友情」の物語——日韓基本条約と置き去りにされた植民地責任」

松田利彦「在日韓国人李榮根と『統一朝鮮新聞』における民族統一運動——一九五〇年代末〜一九六〇年代——

松平けあき「朝鮮戦争における『日系アメリカ人』——

マイノリティとしての従軍経験」

〈第三回研究会〉

二〇一九年九月二二日

合評会Ⅰ「原佑介『禁じられた郷愁』」

評者・安志那（ゲストスピーカー）、ニコラス・ランブル  
クト

塚瀬進「マンチュリアにおける旗人、滿洲人（満人）、滿  
洲族（満族）」

陳延媛「一九一〇年代台湾における娼妓稼業契約の公証  
義務化とその廃止」

コメンテーター・上田貴子

合評会Ⅱ「中山大将『サハリン残留日本人と戦後日本』」  
評者・高希麗（ゲストスピーカー）、野入直美

〈基幹共同研究〉

比較のなかの東アジアの王権論と秩序構想——王朝・帝国・国  
家、または、思想・宗教・儀礼——

〔研究代表者 伊東貴之〕

〔共同研究者名〕

倉本一宏、井上章一、瀧井一博、ジョン・グリーン、松  
田利彦、劉建輝、榎本涉、フレデリック・クレインス、  
マルクス・リュッターマン、青木隆、新井菜穂子、井上  
厚史、恩田裕正、垣内景子、荻部直、橋川智昭、権純  
哲、小島毅、佐野真由子、関智英、末木文美士、銭国  
紅、竹村英二、竹村民郎、田尻祐一郎、土田健次郎、永  
富青地、西澤治彦、長谷部英一、林文孝、松下道信、

水口拓寿、横手裕、李梁、吾妻重二、新田元規、石井剛、伊藤聡、井ノ口哲也、内山直樹、遠藤基郎、大久保良峻、黒岩高、岸本美緒、児島恭子、近藤成一、佐々木愛、杉山清彦、高柳信夫、葭森健介、保立道久、李曉東、本間次彦、松野敏之、石川洋、澤井啓一、渡邊義浩、前田勉、渡辺美季、中純夫、古勝隆一、茂木敏夫、重田みち、周圓、田口由香、豊田裕章、山村奨

〔海外共同研究員名〕

張啓雄、葛兆光、手島崇裕、ベンジャミン・A・エルマン

〔研究発表〕

〈第一五回研究会〉

二〇一九年八月四日

佐々木愛「父子同気」と中国家族法の原理」

権純哲「高橋亨の京城帝国大学「朝鮮思想史」／朝鮮儒學

史」講義ノートの翻刻を終えて」

野村玄（ゲストスピーカー）「元禄一六年一二月の七社七

寺祈祷・内侍所御神楽と徳川綱吉―天皇と将軍に「宗

教的機能」とその相剋は存在したのか―」

二〇一九年八月五日

李曉東「立憲の中国的論理」

荻部直「國體」と主権論」

〈第一六回研究会〉

二〇一九年九月二日

松下道信「新道教」を越えて―全真教の新たな位置付

けの試み―

上川通夫（ゲストスピーカー）「日本中世仏教と民衆思想

―ユーラシア・東アジア・列島諸地域―」

岩本憲司（ゲストスピーカー）「公羊傳注の虚字解釋」

〈第一七回研究会〉

〔所外開催 国士館大学文学部〕

二〇一九年一月九日

楠本文庫閲覧

手島崇裕「入宋僧の在中活動はどう描写されてきたか―

入宋当事者の言説から近現代まで」

李梁「新文化運動の側面―近代中、西洋医学論争をめ

ぐって―」

竹村民郎「石原莞爾と満洲協和会―王道主義に関連して

―」

二〇一九年二月一〇日

茂木敏夫「普遍と特殊―近現代東アジアにおける秩序

構想の語り方」

児島恭子「未熟の王権―王国をつくらなかった東アジアの周縁民族・アイヌの場合から」王権“を考える―」  
田口由香「幕末期イギリスから見た日本の天皇・將軍・大名」

多文化間交渉における『あいだ』の研究

(研究代、表者 稲賀繁美)

〔共同研究者名〕

石川肇、榎本渉、片岡真伊、君島彩子、フレデリック・クレインス、杉田智美、春藤猷一、根川幸男、古川綾子、セシル・ラリ、飯窪秀樹、白石恵理、陳イジエ、二村淳子、倉田健太、今泉宜子、鶴戸聡、江口久美、大西宏志、岡本光博、小川さやか、隠岐さや香、小倉紀蔵、金子務、九里文子、鞍田崇、近藤高弘、申昌浩、鈴木洋仁、莊千慧、滝澤修身、武内恵美子、竹村民郎、多田伊織、千葉慶、テレングト・アイトル、戸矢理衣奈、中村和恵、長門洋平、西原大輔、朴美貞、橋本順光、林久美子、林洋子、平松秀樹、平芳幸浩、藤原貞朗、ヘレナ・チャプロヴァー、堀まどか、松嶋健、三原

芳秋、宮崎康子、村中由美子、森洋久、マシュー・ラーキング、山本麻友美、郭南燕

〔海外共同研究員名〕

デンニッツァ・ガブラコヴァ、近藤貴子、ミツヨ・デルクルーイトナガ、新井菜穂子

〈第一五回研究会〉

二〇二〇年二月一六日

寺本学(ゲストスピーカー)「パリでの〈間〉展

(一九七八) .. 歴史的検討」(仮題)」

倉田健太「祭礼の管理と喧嘩を巡る言説の変容―新居浜大鼓祭りの会場化をてがかりに―」

二〇二〇年二月一七日

鑄物美佳「稽古型の身体論」

近代東アジアの風俗史

(研究代、表者 井上章一、斎藤光)

〔共同研究者名〕

劉建輝、石川肇、安井眞奈美、唐権、官文娜、申昌浩、永井良和、西村大志、濱田陽、李珣淑、嘉本伊都子、加藤政洋、崔吉城、矢原章、川井ゆう、岩井茂樹、

井上雅人、長田俊樹、木村立哉、仲万美子、橋爪節也、  
北浦寛之、土居浩、劉玲芳

〔研究発表〕

〈第八回研究会〉

二〇一九年六月一日

岩井茂樹「『笑う写真』の誕生」

劉玲芳「アジアにおける「学生服」——日本学校の制服か  
ら中山装へ」

二〇一九年六月二日

唐権「来船清人について——近世中日文化交流再考」

石川肇「甲斐荘楠音と京都の時代劇映画」

〈第九回研究会〉

二〇一九年九月二日

崔吉城「セクシー性と美の文化人類学」

井上雅人「上スハ（諏訪）の一九一八年」

二〇一九年九月三日

官文娜「日本における都市の近代化と共同体の再構成——

神仏習合と行事の役割」

申昌浩「東アジアの「日傘」研究・中国編——上海・北京

の雑誌でみる新女性と日傘 一九二五／一九四五」

〈第一〇回研究会〉

二〇一九年二月二一日

西村大志「色彩」の風俗——靴下をめぐる」

川井ゆう「等身大人形の風俗史」

二〇一九年二月二二日

永井良和「ダンスホールの「植民地」——日本の西洋化と

日本をとおした西洋化」

齋藤光「東アジアの「カフェー」や「カフェー」関連文化現  
象」をいかに捉え比較・分析・記述していけるか？」

〈第一一回研究会〉

（所外開催 京都精華大学流溪館）

二〇二〇年三月七日

矢原章「近代（二五〇年）の資料総合では絵葉書が一番  
である」

嘉本伊都子「写真花嫁の花嫁衣装をめぐる一考察」

二〇二〇年三月八日

井上章一「土足はどこまでゆるされるのか」

井上章一「近代の風俗史、西洋化の情勢をめぐる、ささ

やかな理論的展望、あるいは脱理論的展望、および、

成果出版にむけての提案」



「かのように」という原理で形成してきた文通―「文書」概念や、その様式、記号、表象、意図性

(研究代表者 マルクス・リュッターマン)

〔共同研究者名〕

荒木浩、榎本渉、磯前順一、廣田浩治、梶谷真司、金泰虎、小島道裕、宮原一成、森洋久、小口雅史、岡崎敦、高橋一樹、ウィッターン・クリステイアン

〔海外共同研究員名〕

ミハエル・キンスキー、イエルグ・クウェンサー

〈第四回研究会〉

二〇一九年六月八日

廣田浩治「中世荘園と領主の『文書』授受をめぐる―戦国公家の在荘支配記録『政基公旅引付』などから―

二〇一九年六月九日

史料を読む「守覚法親王伝『消息耳底秘抄』(『群書類衆』

第九卷)

〈第五回研究会〉

二〇一九年一〇月一九日

森洋久「情報とは何か。その概念と現象の基礎論―物理

学史を中心に―

二〇一九年一〇月二〇日

討論「情報学の提唱を受けて」

縮小社会の文化創造…個・ネットワーク・資本・制度の観点から

(研究代表者 山田奨治)

〔共同研究者名〕

松田利彦、田村美由紀、佐野真由子、谷川建司、大石真澄、小川さやか、荻野幸太郎、太下義之、沢田眉香子、服部圭郎、服部正、松村圭一郎、三脇康生、山本泰三、吉澤弥生、吉村和真、山下典子、木村智哉、伊藤遊

〔海外共同研究員名〕

玉野井麻利子

〈第一回研究会〉

二〇一九年七月二七日

山田奨治「研究会のねらい」

服部正「アール・ブリュット、共生という名の分断」

〈第二回研究会〉

二〇一九年九月二八日

吉澤 弥生「公的文化事業における労働問題」

荻野 幸太郎『『エロ漫画表現史』』全国版あの日のエロ本

自販機探訪記』有害図書指定問題の「論点化」と、その後の展開」

〈第三回研究会〉

二〇一九年十二月二一日

田村 美由紀「現代小説にみる〈ケア〉の諸相」

吉村 和真「マンガのバリアフリーについて考える」

〈第四回研究会〉

二〇二〇年三月一四日

松村 圭一郎「縮小社会の「地方」における大学教育と地

域社会」

小川 さやか「リープログ」現象という理解を超えて

——タンザニアと日本を横断するシェアの論理」

文明としてのスポーツ／文化としてのスポーツ

(研究代表者 牛村圭)

〔共同研究者名〕

フレデリック・クレインス、稲賀繁美、劉建輝、ジョ

ン・ブリン、光平有希、西山由理花、倉田健太、田

村 美由紀、増田 齋、井上章一、古田島洋介、藤田大誠、

川島浩平、佐伯順子、佐々木浩雄、高嶋航、竹村民郎、

等松春夫、永井久美子、堀まどか、吉江弘和

〔海外共同研究員名〕

徐載坤、杉田智美

〈第一回研究会〉

二〇一九年七月二〇日

牛村 圭「本共同研究の趣旨説明」

二〇一九年七月二一日

牛村 圭「クラウチングスタートという文明を読む」

〈第二回研究会〉

二〇二〇年三月二〇日

藤田 大誠「近代の神社と体育・スポーツ・武道…身体文

化をめぐる日本と西洋の交錯」

古田島洋介「〈骨(ほね)〉が〈豊(ゆたか)〉なのか?…

解字から説き起こす体育とスポーツ」

二〇二〇年三月二一日

書評会『人種とスポーツ』を読む

評者…吉江弘和、西山由理花

## 東アジア冷戦下の日本における社会運動と文化生産

(研究代表者 宇野田尚哉、坪井秀人)

〔共同研究者名〕

キアラ・コマストリ、石川巧、辛島理人、川口隆行、木下千花、小杉亮子、黒川伊織、高榮蘭、佐藤泉、徐潤雅、鳥羽耕史、成田龍一、村上克尚、森岡卓司、ニコラス・ランブレクト

〈第一回研究会〉

二〇一九年五月一八日

研究代表者挨拶、共同研究趣旨説明、共同研究員自己紹介、今後の研究計画の確認

(所外開催 大阪大学豊中キャンパス)

二〇一九年五月一九日

大阪大学総合芸術博物館にて企画展「四國五郎展―シベリ

アからヒロシマへ―」を観覧

国際シンポジウム「詩画人四國五郎の歩んだ道―シベリア

からヒロシマへ―」に参加

〈第二回研究会〉

二〇一九年七月二七日

石川巧〈「闘争」と「運動」の狭間で…映画「山谷やら

れたらやりかえせ」を読む〕

宇野田尚哉「戦後大阪の華僑系新聞と在日朝鮮人…東ア

ジア現代史のなかの『国際新聞』

二〇一九年七月二八日

辛島理人「親米の運動と文化」

木下千花「胎児が密猟するまで…原水爆禁止運動と「胎児」の誕生」

鳥羽耕史「きりえ画家滝平二郎の誕生…連環画から挿絵

へ」

〈第三回研究会〉

二〇一九年一〇月一三日

キアラ・コマストリ「民話と戦後農村女性の語り―山代巴

「路のとう」を中心に」

黒川伊織「サークル誌からミニコミ誌へ―建具職人・和

田喜太郎における文化生産」

小杉亮子「二九六八〜一九六九年東大闘争における大学

像の対立―大学の境界を問う営みとしての学生運動」

川口隆行「『原爆に生きて』から考える山代巴の表現と運

動」

〈第四回研究会〉

二〇二〇年二月二二日

黒川伊織「サークル誌からミニコミ誌へ…建具職人・和

田喜太郎における文化生産」

小杉亮子「一九六八〜一九六九年東大闘争における大学

像の対立…大学の境界を問う営みとしての学生運動」

ニコラス・ランブレクト「パリケードの中の五木寛之…放

浪、引揚げ、学生運動」

二〇二〇年二月二三日

川口隆行『『原爆に生きて』から考える山代巴の表現と運

動」

村上克尚「動物と交わる…津島佑子「伏姫」における人

間からの逸脱について」

森岡卓司「基地闘争下の共同制作童話…「ヘイタイのい

る村」から「山が泣いてる」へ」

キアラ・コマストリ「山代巴「露のとう」論…朝鮮支配と

農村女性」

高榮蘭「HIROSHIMA・光州をめぐる記憶と連帯

の表象」

徐潤雅「光州事件と日本に生きる画家たち」

二〇二〇年二月二四日

成田龍一「一九七三年の心性史・戦後日本…高度経済成

長のもとでの変化」

佐藤泉「『金石範』か『森崎和江』」

坪井秀人「ストリート・カルチュア再考…寺山修司その他」

近代日本思想を読み直す…次世代への知の継承・刷新のため

のツール開発―21世紀の国際的視野に立った学際的・総合的・

批判的研究

(研究代表者 稲賀繁美、中島隆博)

(共同研究者名)

瀧井一博、二村淳子、張競、隠岐さや香、末木文美士、

安藤礼二、岡本拓司、中島岳志、苅部直、清水晶子、

松浦寿輝、苅谷剛彦、吉見俊哉、西平直、小野塚知二、

小島毅、セビリア・アントン、佐藤麻貴、三原芳秋、村

中由美子、鶴戸聡、江口久美、戸矢理衣奈、多田伊織

〈第一回研究会〉

二〇一九年七月一日

担当巻の編集方針・文書選択・解説などの提示と討論

末木文美士「第二巻「日本」

中島隆博「第四巻「哲学」

岡本拓司「第五卷「科学・技術」」

刈部直「第八卷「戦争と平和」」

二〇一九年七月二〇日

担当巻の編集方針・文書選択・解説などの提示と討論

稲賀繁美「第六卷「美／藝術」」

吉見俊哉「第一二巻「メディア」」

西平直「第一三巻「心身」」

小野塚知二「第一四巻「経済／経営」」

〈第二回研究会〉

〔所外開催 東京大学 本郷キャンパス〕

二〇一九年一〇月一四日

安藤礼二「宗教」

吉見俊哉「メディア」

二〇一九年一〇月一五日

中島岳志「社会問題」

小島毅「歴史」

〈第三回研究会〉

二〇二〇年二月二日

担当巻の編集方針・文書選択・解説などの提示と討論

瀧井一博「第一巻「国家」」

水溜真由美（ゲストスピーカー）「第九巻「ジェンダー」」

〈第四回研究会〉

二〇二〇年二月一五日

担当巻の編集方針・文書選択・解説などの提示と討論

松浦寿輝「第一〇巻「言論／文学」」

刈谷剛彦「第一巻「教育」」

「日本型」教育文化を問い直す―新たな人間形成論をめざして

〔研究代表者 瀧井一博、稲垣恭子〕

〔共同研究者名〕

根川幸男、西田彰一、矢野智司、齊藤智、竹内里欧、

ラブリール・ジェルミール、安藤幸、井上義和、椎名健人、

吉江弘和、高山敬太

〔海外共同研究員名〕

ジョセフ・トービン、スイン・ユン、ヨンミ・リ、チン

ジュ・マオ

〈第一回研究会〉

二〇一九年四月一三日

稲垣恭子「本研究会の趣旨説明」

書評・瀧井一博『渡邊洪基——衆智を集むるを第一とす』

評者：竹内里欧、井上義和

(所外開催 国際文化会館)

〈第二回研究会〉

二〇一九年二月七日

チンジュ・フオ「Curriculum reform as constituting and re-constituting “nation-ness”: a case of Taiwan」

スニン・フン「Museum as Method: An Imaginative Approach to Education」

二〇一九年二月八日

ヨン・ミ・リ「Rethinking East Asia: Towards a regional dialogue in education」

国際文化会館内の図書室における資料調査

(文責：研究協力課)

### 基礎領域研究

英文日本歴史研究書講読(継続)

代表者 牛村圭

概要 達意の英語で書かれた日本史研究書を素材に、英文

を正しく読み、自然な日本語にする手法の修得を目指す。

中世文学講読(継続)

代表者 荒木浩

概要 日本中世文学の文献を、影印を参照し、英訳などとも対比しながら精読するとともに、最新の研究動向などについての発表や情報交換の場としても活用する。

韓国語の運用(基礎・応用)(継続)

代表者 松田利彦

概要 業務や研究で韓国語を必要とする職員・大学院生等を対象に韓国語の会話・作文・読解の習得を目指した授業を行う。

古記録学基礎研究(継続)

代表者 倉本一宏

概要 日本前近代の根幹的史料である古記録の解説を、原本や写本の見方・扱い方も含めて考えていく。

フランス語基礎運用(初級)(継続)

代表者 稲賀繁美

概要 初心者を対象として、初歩の運用能力を実践的に身に付ける。教科書としては市販の教材の準備を参加者各自にお願いする。他の教材は現場で提供する。